

看護管理 第10巻 総目次

2000年(1-12号)

*表示は、筆者名(発表当時の所属)：題名、号数、ページ。

【特集】

●院内感染管理システムの再構築(1号)

土井英史(ヘルスケアリソース研究所)：医療の質保証と院内感染症対策，1，14-18.

足立友秀(東栄部品株式会社)：感染防止ハウスキーピング—あなたの病院のハウスキーピング総点検，1，19-24.

伊澤久代(関西労災病院)他：関西労災病院における院内感染対策と組織づくり—実働部隊としてのインфекション・コントロール・チーム，1，25-29.

上田多加子(公立南丹病院)他：米国の院内感染対策を見て—今しなければならないこと，これからすべきこと，1，30-33.

●滝川市立病院看護職と行政との人事交流—介護保険時代の看護の役割(2号)

武内恵輔(滝川市立病院)：地域における市立病院の役割，2，102-104.

小林勝子(滝川市立病院)：人事交流による行政との連携—保健婦・看護婦合同会議の実施から勤務交替へ，2，105-110.

上村喜美子(滝川市保健福祉部)：勤務交替の背景と実施，2，111-112.

林貴恵子(滝川地域訪問看護ステーション)：看護部長から市へ，さらに訪問看護ステーションへと，2，112-113.

運上明子(滝川市保健福祉部)：市役所から病棟看護婦，そして再び行政へ，2，113-114.

木村理恵(滝川市立病院)：病棟看護婦から市役所，そして再び病院へ，2，114-115.

佐藤和美(老人保健施設ナイスケアすずかけ)：病棟看護婦から市へ，さらに老人保健施設へ，2，115-116.

深村完市(滝川市保健福祉部)：保健・医療・福祉の連携と看護職への期待，2，117-118.

佐川むつ子(滝川市保健福祉部)：自分の経験を行政での仕事に生かす，2，119-120.

花海美知子(滝川市在宅介護支援センターすずかけ)：ケアマネジャーとしてどう働くか，2，121-123.

堀妙子(滝川市立病院)他：在宅介護に向けてのスタッフ教育，2，124-127.

長棟信子(滝川市中央在宅介護支援センター)：在宅

介護支援センター開設から現在の活動まで，2，128-131.

鹿島幸子(滝川市立病院)他：訪問看護室と介護支援センターとの連携，2，132-134.

辰巳真由美(滝川市立病院)他：外来部門と在宅介護支援センターとの連携，2，134-135.

山本近子(滝川市立病院)他：病棟と在宅介護支援センターの連携，2，136-138.

前久美子(滝川市立病院)：精神科在宅支援体制の確立に向けて，2，138-140.

佐藤七重(滝川市役所保健福祉部)他：院内自主学习グループ「スキンケアグループ」の実践活動，2，141-143.

●誌上フォーラム・当院のリスクマネジメント(3号)

中島和恵(大阪大学大学院)：日本型リスクマネジメント確立のための組織づくり—9つのポイント，3，179-182.

福山美恵子(神戸赤十字病院)：看護事故防止に向け意識を高める，3，183-188.

金城智恵子(関西労災病院)：予防に役立つ事故分析と看護技術の徹底を図る，3，189-192.

原田玻瑠美(公立豊岡病院)：真に機能する医療事故防止活動を探求する，3，193-197.

広畑朱美(神戸市立中央市民病院)：組織をあげて改善に取り組む，3，198-203.

●クリティカルパスの管理(4号)

坂本すが(NTT 東日本関東病院)：クリティカルパス実践のための体制づくり—新しい看護管理技法を視野に入れて，4，268-271.

中橋和子(NTT 東日本関東病院)：ケースマネジャーとしての主任の役割，4，272-277.

武藤正樹(国立長野病院)：成果医療とクリティカルパス，4，278-282.

松本あき子(東京大学大学院)：アウトカムが高めるクリティカルパスの精度と実用性，4，283-289.

間中節子(間中病院)：中小病院でのクリティカルパス導入，4，290-296.

福井トシ子(杏林大学医学部附属病院)：ケアマネジメントツールとしてのクリティカルパス—正常分娩のクリティカルパスを導入して，4，297-303.

阿部俊子(東京医科歯科大学)：クリニカルパスの

3段階—歩進んだクリニカルパスに向けて、
4, 304-307.

●第4次医療法改正と看護(5号)

水巻中正(読売新聞社):第4次医療法改正案のポイント, 5, 354-359.

[資料]医療法等の一部を改正する法律要綱, 5, 356-357.

奥村元子(日本看護協会):看護婦の需給状況と人員配置—データで読む医療法改正論議, 5, 360-364.

二本立(日本福祉大学):[インタビュー]医療・看護への影響と将来予測—病床区分を中心に, 5, 365-371.

[速報]2000年4月診療報酬改定, 5, 372.

●医療材料の適正使用に向けて(6号)

山崎絆(東京都済生会中央病院):臨床看護技術における医療材料の適正使用検討の意義—看護の質と経済の根拠を見直す, 6, 440-445.

逢坂範子(緑成会病院):気管内吸引—吸引カテーテルの適正使用, 6, 446-450.

吉田澄江(東京都済成会向島病院):膀胱洗浄, 全身清拭, 6, 451-455.

武田登志子(竹田綜合病院):ヘパリンロック—生理食塩水による間欠注入ロックの検討, 6, 456-459.

中丸壽美(藤間病院):経中心静脈栄養法(IVH)—三方活栓を使用しない方法へ, 6, 460-462.

岩満裕子(戸田中央総合病院):術前剃毛, 6, 463-465.

伊藤香代子(永生病院):褥瘡の予防ケア, 6, 466-470.

●2000年診療報酬改定で何が変わる?(7号)

大島敏子(横須賀北部共済病院)他:[座談会]診療報酬改定は現場をどう変えるか, 7, 524-535.

岩澤和子(厚生省):[インタビュー]2000年診療報酬改定のねらい, 7, 536-541.

鳥羽克子(聖路加国際病院):クローズアップされる診療情報管理の意義, 7, 542-548.

●ある看護チームの挑戦—『脳治療革命の朝』の現場から(8号)

松月みどり(日本大学医学部附属板橋病院):[インタビュー]看護チームの脳低温療法への挑戦(聞き手・川島みどり), 8, 606-614.

縣美恵子(日本大学医学部附属板橋病院):看護の質向上をめざした看護組織の変遷, 8, 615-618.

千葉由香里(日本大学医学部附属板橋病院):医療チ

ームの連携の実際, 8, 619-621.

粕谷由美(日本大学医学部附属板橋病院):看護組織の変遷とチームの職場風土, 8, 622-623.

柴陽子(日本大学医学部附属板橋病院):救命を可能にする看護チームの看護管理—チームをまとめる, 8, 624-626.

峰山純子(日本大学医学部附属板橋病院):私たちの看護を実現するために, 8, 627-629.

西尾治美(日本大学医学部附属板橋病院):この医療チームの魅力—看護婦として, なぜこの職場を選んだのか, そして何を学んだのか, 8, 630-633.

雅楽川聰(日本大学医学部附属板橋病院):医師としてなぜこの職場を選んだのか, そして何を学んだのか, 8, 634-638.

柳田邦男(ノンフィクション作家):私の目に映った救命医療の看護—脳低温療法に挑むチームが教えるもの, 8, 639-644.

柳田邦男(ノンフィクション作家)・川島みどり(健和会臨床看護学研究所):[対談]21世紀に引き継ぐ医療・看護—共に創る医療をめざして, 8, 645-655.

●外来看護の新しい取り組み(9号)

畠中智代(聖隷浜松病院):変わり続ける外来と当院の試み, 9, 696-700.

牛田淳子(聖隷浜松病院):外来看護婦と医療秘書との役割分担と連携, 9, 701-706.

平田久子(埼玉社会保険病院):病棟と外来の看護単位共通化—継続看護を組織的に実現するために, 9, 707-709.

関矢カズ子(埼玉社会保険病院):内科外来と内科病棟の看護単位共通化, 9, 709-713.

前田夕起子(恵佑会東病院)他:土・日・祝日の外来診療を支える, 9, 714-718.

堀江妃佐子(青森県立中央病院):看護相談室の可能性—大学と病院のユニフィケーション, 9, 719-722.

●患者中心の面会を実践する(10号)

西元勝子(固定チームナーシング研究所):患者中心の面会をどうデザインするか—面会の意義を実践に導くアセスメントガイド, 10, 786-789.

道又元裕(日本看護協会看護教育・研究センター):ICUにおける面会—危機状況にある患者—家族のニーズに応える, 10, 790-796.

横尾京子(広島大学):NICUにおける面会—新生児の権利を擁護する, 10, 797-800.

川口加代子(兵庫県立こども病院)他:小児病院の面会—こどもの発達と家族のかかわりを促す,

10, 801-804.
西 豊子(飯塚記念病院):精神科病院における面会・ケアの質や意味を問い、それを支えるもの、10, 805-810.
小田式子(永寿総合病院):緩和ケア病棟における面会・希望に満ちた最期を迎えるために、10, 811-813.

●専門看護師の導入と定着のために(11号)

田中由紀子(横浜市立市民病院)他:[座談会]専門看護師をいかに組織で生かすか、11, 872-880.
本谷菜穂子(横浜市立市民病院)他:専門看護婦の定着に向けた組織的取り組み、11, 881-886.
國井治子(前・横浜市立市民病院):[コラム]いま、改めてCNS導入のすすめ、11, 887.

●薬剤部と連携して事故を防止する(12号)

伊賀立二(東京大学医学部附属病院):医療事故予防に向けた薬剤師活動、12, 948-954.
澤田康文(九州大学大学院):投薬ミス防止にはたす薬剤師の役割、12, 955-959.
山田安彦(東京大学医学部附属病院)他:外来での服薬指導、12, 960-964.
峯村純子(昭和大学病院)他:病棟薬剤師の活動を可能にするチーム医療、12, 965-970.
坂本すが(NTT東日本関東病院):薬剤部と看護部の連携—チームで取り組むリスク管理、12, 971-974.

【特別記事】

小島恭子(北里大学病院):患者中心のベッドコントロール—大学病院における効果的な病床管理の実際、1, 36-42.
吉川祐美子(横浜市立脳血管医療センター)他:マーカーモデルによる看護基準の作成—横浜市立脳血管医療センターにおける看護基準の考え方と作成のプロセス、1, 43-49.
松浦謙二(ジャクソン記念病院):米国の救急医療事情その2—患者に関わるさまざまな職種、1, 52-56.
草刈淳子(千葉大学):これからの看護管理者に必要な9つの能力—マーガレット・ソヴィーの論考に学ぶ、1, 57-62.
福浦忠雄(北海道保健福祉部):介護保険と看護職—滝川市における病院と行政の連携を例に、2, 88-92.
高嶋妙子(聖隷浜松病院):看護管理者へ7つのメッセージ、3, 226-231.
横浜市立脳血管医療センター看護基準作成プロジェクトチーム:マーカーモデルによる看護基準

作成の実際、4, 308-316.
吉川壽純(吉川総合法律事務所):医療事故の刑事裁判、5, 374-381.
遙洋子(タレント):[インタビュー]遙洋子にケンカを学ぶ、5, 383-389.
長前キミ子(国立がんセンター中央病院):国立がんセンターにおける臓器別グループ診療体制—看護からの評価を中心に、5, 390-393.
近藤浩明(監査法人太田昭和センチュリー):外部監査で見た自治体病院運営上の課題、6, 472-477.
リンダ・オブライエン・パラス(トロント大学):看護婦のリストラにそなえて—看護管理職として知っておきたい研究データ、7, 550-556.
福地直樹(福地・野田法律事務所):カルテ開示をめぐる諸問題—悪条件のなかであえて診療記録の開示を求めるわけ、8, 657-661.
太田雅子(公立富岡総合病院)他:医療過誤防止カルタの作成—看護主任会から生まれた医療過誤防止対策、9, 735-738.
佐田和子(健育会熱川温泉病院)病院組織に機能別チーム制を導入して—白衣を脱いでマネージャーとしてチーム医療にかかわる、9, 742-747.
飯島恵道(東昌寺):尼僧からナースへ、そして今、尼僧として—看護と仏教の融合をめざして私にできること、9, 748-753.
デボラ モリソン ギル(プロビデンス病院):[インタビュー]米国プロビデンス病院におけるリスクマネジメント(聞き手・竹谷美穂)、10, 816-823.
長谷川啓三(東北大学):解決志向の看護管理—組織の力に着目するシステム論活用のすすめ、10, 832-834.
柚木貴晴(梅田病院):“やってみなはれ”の経営精神—医と華僑の友・日本人の優・アメリカ人の遊をドッキングして、10, 838-843.
稲田三津子(日本赤十字看護大学)他:認定看護師への組織的支援に関する提言—導入の成果を保証するために、11, 888-892.
山口千鶴子(富山医科薬科大学)他:意欲を引き出す勤務ローテーションシステムの試み—異動希望も専門志向も尊重して組織を活性化する、11, 893-897.
櫻田信敏(都立府中療育センター)他:ウェルネス型看護診断 Part II—新しい看護診断ラベルの開発と活用、12, 988-993.
田久浩志(中部学院大学):利用者の視点によるホームページ作成のすすめ、病院ホームページ評価の試みから、12, 995-1000.

【グラフ】

佐藤紀子(東京女子医科大学)：病院管理職，地域でのケアに活躍する，2，93-96. / 人と人がつなぐケア提供システム，2，97-100.
医療過誤ゼロを楽しくめざして－公立富岡総合病院の「医療過誤防止カルタ」大会，9，739-741.

【焦点】

富山医科薬科大学附属病院看護部看護ケア安全対策委員会：看護ケア安全対策マニュアルよく遭遇するニアミス場面，その要因と対策，3，204-223.
川村孝(京都大学保健管理センター)：看護の現場からエビデンスを作ろう，7，557-562.

●「医療のリスクマネジメントシステム構築に関する研究」報告書をめぐって

川村治子(杏林大学)：注射エラーマップ作成過程とその活用について，9，723-725.
嶋森好子：看護の立場からの期待と評価，9，726-729.
水巻中正：事故防止対策を考える布石に，9，729-731.
【資料】看護のヒヤリ・ハット事例の分析－与薬(注射)エラー発生要因の分析を中心として，9，732-733.

田村蓉子(鳥取市立病院)他：チームのサポートで看護観を確立－卒後3年目研修への教育的かわり，11，900-905.
金井淳(横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター)新人教育における教育的関わり－看護事故から新人を守る，11，906-911.
奥野善彦：[インタビュー]医療事故への対応－法律家の視点で(聞き手・嶋森好子)，12，975-982.

【特別論文】

大山由紀(広島大学)：刑法の「一部露出」説から見た出産現場にかかわる医療者の責任，10，825-829.
紙屋克子(筑波大学)：看護の専門性と法的責任，12，983-986.

【第4回懸賞論文「病院から地域へのネットワークづくり」】

審査結果発表・審査委員講評，1，4-5.
鈴木桜子(聖隷浜松病院)：病院から地域へのネットワークづくり10年－呼吸器を装着したALS患者の在宅療養への取り組みを通して，1，6-11.

玉田八重子(広島市立安佐市民病院)他：病院から地域へのネットワークづくり，2，146-152.
田渕純子(横浜市立市民病院)：地域とのネットワーク－横浜市立市民病院の取り組み，3，232-238.

【実践報告】

岡本邦子(東大阪市立総合病院)他：個人評価リストを用いた卒後1年目の目標到達測定，4，317-322.
下山朋子(社会保険船橋中央病院)他：写真や図を多用した活用しやすい看護基準の作成，6，479-483.
岩戸千秋(大阪赤十字病院)：看護現場でEBNを実践するために，7，563-566.

【調査研究】

吉岡洋治(自治医科大学看護短期大学)他：高齢者の保健・医療・福祉施設における感染症問題に関する調査研究，11，914-919.
野々村典子(茨城県立医療大学)他：リハビリテーション看護領域におけるチーム活動の実態と理論モデル適用の可能性，11，920-926.
桑田弘美(岐阜大学)他：看護職員の運動領に関する一考察－大学病院整形外科病棟看護婦の交代勤務における消費カロリー及び歩数の測定，12，1001-1005.

【文献レビュー】

小林美亜(慶應義塾大学)他：日本におけるクリニカルパス，8，662-670.

【連載・白衣のポケット】

志水夕里(看護婦)：
⑩嘘は方便か，1，50-51.
⑪冷たい唇，2，153.
⑫<最終回>3つのH，3，224-225.

【連載・環境?!】

笥淳夫(国立医療・病院管理研究所)：
⑬ボランティアの得意分野を生かした施設づくり，1，1.
⑭小さくなった待合い空間，2，85.
⑮在宅生活がシミュレーションできる病室，3，175.
⑯非喫煙者に配慮した喫煙スペース，4，263.
⑰患者の目線で作られた案内板，5，349.
⑱子どもが遊ぶ“自然”あふれる中庭，6，435.
⑲やさしい窓辺，7，519.
⑳明るいほど見えにくくなる廊下，8，601.

- ②①パーフェクトな洗面台をめざして, 9, 691.
- ②②転ばぬ先のベンチ, 10, 781.
- ②③時の止まった棚, 11, 867.
- ②④<最終回>暖かい毛布で見る夢, 12, 943.

【連載・看護管理業務の改善】

・鳥取市立病院の取り組み：

- ①塩澤洋子(鳥取市立病院)：婦長マニュアルの作成, 1, 63-67.
- ②森本和子(鳥取市立病院)：医療事故防止－婦長マニュアルでの対応策, 2, 155-160.
- ③田村蓉子(鳥取市立病院)：婦長マニュアルの活用－新人婦長の成長のために, 3, 239-245.

・長野赤十字病院の取り組み：

- ①畠山悦子(長野赤十字病院)他：現任教育に「看護管理コース」を導入して, 4, 329-333.
- ②青木美智子(長野赤十字病院)他：中堅ナースにリーダーシップの発揮をうながす, 5, 415-420.
- ③青木美智子(長野赤十字病院)他：研修生と婦長は看護管理研修をどう評価したか, 6, 501-505.

【連載・災害看護－金田和子の救護人生から学ぶ】

大和田恭子(日本赤十字社医療センター)：

- ①私が金田の体験を伝えようとする理由, 1, 70-73.
- ②失敗は成功の母, 2, 161-164.
- ③救護の知恵袋, 3, 247-251.
- ④備えあれば憂いは続く, 4, 336-339.
- ⑤救護は「心」, 5, 422-425.
- ⑥災害救護の未来, 6, 506-509.
- ⑦〔番外編〕「整体」－破損のひどい遺体を整復する1方法, 7, 587-591.

【連載・現場の学としてのアクションリサーチ－ソフトシステムズ方法論の理論と実際】

内山研一(大東文化大学)：

- ①アクションリサーチとは何か・1, 4, 324-328.
- ②アクションリサーチとは何か・2, 5, 407-413.
- ③ソフトシステムズ方法論の考え方とプロセス・1, 6, 494-500.
- ④ソフトシステムズ方法論の考え方とプロセス・2, 7, 577-584.
- ⑤ソフトシステムズ方法論の考え方とプロセス・3, 8, 672-679.
- ⑥ソフトシステムズ方法論の考え方とプロセス・4とアクションリサーチの理論／方法論まとめ, 9, 763-770.
- ⑦<最終回>看護の現場で培われた知恵を理論につなぐ－対談・上泉和子(青森県立保健大学), 10, 845-852.

【連載・ケアの質とスタッフ配置のための研究】

竹谷美穂(厚生中央病院), 住吉蝶子(札幌医科大学), 山崎慶子(東京女子医科大学病院)他：

- ①Medicus®患者分類指標36項目の紹介, 5, 395-405.
- ②米国の「患者分類システム」を日本で試行してみても一般病院内科病棟における重症度分析およびスタッフ配置, 6, 485-492.
- ③米国における患者分類システムの歴史的背景, 7, 571-575.
- ④米国プロビデンス病院での患者分類システムによるスタッフ配置の実際, 9, 755-762.
- ⑤わが国における患者分類システム試行までの経緯, 12, 1008-1012.

【連載・看護管理者の眼】

田中由紀子(横浜市民立市民病院)：

- ①管理は人と人とのネットワークから, 1, 69.
- ②研修生を受け入れるということ, 2, 165.
- ③新人にきちんと伝えること, 3, 253.
- ④少しばかりの心のゆとりを, 4, 335.
- ⑤病院ボランティア, 5, 421.
- ⑥データは目的をもって, 使いこなそう, 6, 514.
- ⑦婦長たちも臨床研究を行なおう, 7, 585.
- ⑧困難な話ほど直接会って話そう, 8, 671.
- ⑨危機管理のデータベースとなる引越しの記録を残そう, 9, 771.
- ⑩社会にお返しする年代, 10, 853.
- ⑪論理的思考で議論する, 11, 929.
- ⑫<最終回>迷ったら, 基本と根拠に立ち戻れ, 12, 1013.

【連載・カウンセリングの現場から】

信田さよ子(原宿カウンセリングセンター)：

- ①母の「不幸」, 1, 74-75.
- ②親の親, 2, 166-167.
- ③苦労アディクション, 3, 254-255.
- ④死んでお詫びをいたします, 4, 340-341.
- ⑤宿主としての親たち, 5, 426-427.
- ⑥保険がきかないんですか?, 6, 510-511.
- ⑦殴られても戻っていく人たち, 7, 592-593.
- ⑧支配する人・逃げられない人, 8, 682-683.
- ⑨夫を救いたいんです1, 9, 774-775.
- ⑩夫を救いたいんです2, 10, 858-859.
- ⑪他人を救いたがる人たち, 11, 934-935.
- ⑫<最終回>蘇る記憶, 12, 1014-1015.

【連載・ニューヨーク人間模様】

大竹秀子(フリーランス・エディター)：

- ①バイバイ, 優等生, 1, 76-77.

- ②アパートの中の人生, 2, 168-169.
- ③人当たりのよい歯医者, 3, 256-257.
- ④ピカピカ好景気, 4, 342-343.
- ⑤発信のかたち, 5, 428-429.
- ⑥悪運つきず, 6, 512-513.
- ⑦「国勢調査」が, やって来た, 7, 594-595.
- ⑧国を超えて, 世代を超えて, 8, 684-685.
- ⑨ところ変われば……, 9, 776-777.
- ⑩その気にさせないで, 10, 860-861.
- ⑪夢のありよう, 11, 936-937.
- ⑫<最終回>あっという間に, また1年, 12, 1020-1021.

【連載・町看護婦から医療を見ると】

新田幸代(新田クリニック) :

- ①町看護婦と介護保険, 1, 78.
- ②お金の話, 2, 171.
- ③「怖い」ということ, 3, 260.
- ④要介護認定訪問調査, 4, 344.
- ⑤関係性の忘却と医療事故, 5, 430.
- ⑥犬の散歩, 6, 515.
- ⑦制度と生活の狭間で, 7, 597.
- ⑧患者と医療者のズレ, 8, 687.
- ⑨わかりたい・伝えたい, 9, 779.
- ⑩Sさんの選択, 10, 863.
- ⑪小さなつながりであっても, 11, 939.
- ⑫<最終回>町看護婦の現場から看護を問いつける, 12, 1023.

【連載・ドロシーモトヤマのワンポイントアドバイス】

ドロシーモトヤマ(教育コンサルタント) :

- ④脳細胞のドアを開く・教え方ー蝶ネクタイ・テクニク, 1, 34-35.
- ⑤看護助手を教えましょう・6つのたまもの, 6つの贈り物, 2, 144-145.
- ⑥チームで知識や情報を共有するための教育, 7, 586.
- ⑦アセスメントし, 考え, 再びアセス……, 8, 686.
- ⑧走れ, 走れ, 早く……!! 水便・血便・脂肪便, 10, 862.
- ⑨ヘリコバクター・ピロリ, 11, 938.
- ⑩C型肝炎(HCV), 12, 1022.

【連載・見直そう「儀式」「習慣」だらけの感染管理】

土井英史(ヘルスケアリソース研究所) :

- ①Infection Controlの歴史を学ぼう, 7, 568-569.
- ②手洗い! 手洗い! 手洗い!, 8, 680-681.

- ③標準予防策(Standard Precautions)を実践しよう, 9, 772-773.
- ④感染成立の条件をつぶせ!, 10, 856-857.
- ⑤医療器具から感染した!, 11, 932-933.
- ⑥“常識”を疑え!, 12, 1016-1017.

【連載・Welcome to the 婦長's Theater】

加藤光寶(新潟県立看護短期大学) :

- ①婦長って何だろう?, 10, 854-855.
- ②婦長のパフォーマンス水準, 11, 930-931.
- ③婦長の品定め, 12, 1018-1019.

【BOOK REVIEW】

宮川哲夫他編『理学療法MOOK4・呼吸理学療法』, 2, 170.

横尾京子訳『小児・新生児の痛みと看護』, 3, 258.

金井一薫編著『KOMI チャートシステム・2000ーケアの実践を支える原理と方式』, 3, 259.

西元勝子他著『固定チームナースィングー責任と継続性のある看護のために』, 5, 373.

箕輪良行他著『医療現場のコミュニケーション』, 5, 414.

二本立著『保健・医療・福祉複合体ー全国調査と将来予測』, 5, 431.

押田茂實監修(ビデオ)『事例に学ぶ医療事故(全6巻)』, 6, 478.

松井真知子著『アメリカで乳がんと生きる』, 6, 484.

佐藤淑子他編『JJN スペシャル No.65』『看護文献・情報へのアプローチ』, 7, 549.

塩見弘監訳『組織事故ー起こるべくして起こる事故からの脱却』, 7, 570.

井上泰訳『これだけは知っておきたい疾病のなりたち』, 8, 656.

川島みどり著『歩き続けて看護』, 9, 734.

服部祥子著『生涯人間発達論ー人間への深い理解と愛情を育むために』, 9, 754.

山内隆久他著『医療事故ーなぜ起こるのか, どうすれば防げるのか』, 10, 815.

押田茂實他著『事例に学ぶ医療事故』, 10, 837.

藤腹明子著『仏教と看護ーウパスターナ=傍らに立つ』, 11, 899.

中山和弘他編『ナースのための わかる! 使える! インターネット』, 11, 913.

新道幸恵他編『婦長のためのマネジメント』, 12, 994.

『臨床看護研究の進歩 Vol.11』, 12, 1006.

清水哲郎著『臨床現場に臨む哲学II』, 12, 1007.